

御父からの使徒、イエス

年間第15主日B年

「旧約聖書に潜んでいることは、新約聖書において明るみに出る」。聖アウグスチヌスのこの言葉はさまざまに解釈されます。たとえば、アブラハムの時代から、み言葉は語りかけられ、聞こえるものでした。イスラエル人にとって「聞く」ということを重要視したのは、そのためでもあります。しかし、紀元前の五、六世紀の偉大な預言者たちのころから、み言葉は力強いイメージによって表されるようになります。たとえば、イザヤは、多くの民が神の山に登っていくイメージを見ます。聞こえるすべての音、想像力をかき立てられるそれらのイメージは、み言葉が表している意味に満ちています。新約聖書においては、それらの音やイメージに秘められていることが骨と肉をもって現れる人間のうちに明るみにされます。そのひとりの人間こそ、御父の子、イエスです。その意味で、み言葉の啓示は、聞こえるものと想像力で描くものから進んで、見ること、触れることのできる人間の姿として現れるようになります。旧約聖書に秘められていることで新約聖書の中に明るみにされることがほかにもあります。たとえば、ご存じのように、旧約聖書は、三つの部分、すなわち、トーラー（律法）、ネビーム（預言者）、ケトウブーム（諸書）から成りますが、旧約聖書の律法は、新約に現れてくる律法、すなわち、人間の行動のすべて基準、道理そのものであるイエスご自身を預言しています。また、旧約の預言者たちの役割は、民が律法に従って生きるようにみ言葉を解説することで、それは、新約に現れてくる偉大な預言者を知らせることでした。その偉大な預言者とは、主イエスであり、ご自分のことを御父の子として啓示してくださることによって、私たちに御父へと導いてくださいます。さらに旧約聖書の知恵とは、新約聖書で明るみに出される十字架の知恵の預言であり、その知恵は、世界の再創造と世の救いとなるものです。こうした意味で、旧約聖書に秘められていたことは、新約聖書で明るみに出されるのです。したがって、福音書に現れるエピソードは、たいてい旧約聖書に似たようなエピソードであらかじめ表され、その意味の豊かさが示されています。

ところが、一つの例外が見られます。ご復活後、弟子たちを全世界に遣わす前、主は公生活の間に、ご自分の弟子たちを宣教へ送っておられます。ですが似たようなことは旧約聖書にはないようです。自分の弟子を宣教に遣わした預言者は一人もいません。そう考えると一つの問いが浮かんできます。旧約聖書に照らして、主イエスがご自分の弟子をミッションに遣わすことに意味を与えるようなエピソードがないでしょうか？ それについて思いめぐらしているとある大事な、一つのことに気づくようになります。それは、旧約聖書の中では使徒とは呼ばれていませんが、神から召され、ある使命を果たすように選ばれた人は皆、御父から遣わされた使徒です。使徒とは、遣わされるという意味だからです。彼らは、自分が十分その使命を理解することができなくても、御父の使徒そのものであるお方の道を準備し、整えることで、その道を開くことです。ですから主イエスが、すべてのミッション、すべての使命、すべての使徒職の源と言えるでしょう。御父の使徒・主イエスのおかげで、私たち一人ひとは、自分自身が、御父の使命を果たすためにこの世に遣わされていることを発見するようになります。これらのことについて少し考えてみましょう。

御父から、救いの歴史を開く者として遣わされた最初の使徒は、アブラハムです。「自分の故郷と父の家を離れ、私が示す土地に赴きなさい……おまえの子孫、世界のすべての家族が祝福されます」と。創世記の12章に記されているこの言葉のうちに、すでに救いの歴史の内容が示されています。アブラハムは、世界のすべての家族に祝福をもたらす方の道を備えなければ

ばなりません。ユダヤの紀元前一世紀前後、洗礼者ヨハネが主の先駆者であったように、世界の歴史においてその先駆者は、アブラハムです。彼に語りかけられたみ言葉のうちに、御父が遣わすすべての使徒たちの内的な姿が要約されています。彼らは皆、従順の人です。受け入れた言葉が、自分たちの行動の基準です。人間の歩む歴史が、実は創造主による救いの計画であることに目覚めて、全身全霊でそれに協力しようとしています。世を救うために、この世界を超える方に心を置いていなければならないことを心得ています。

この背景のもとに、主から遣わされた弟子たちのミッションの意味が照らされます。確かに旧約時代には、自分の弟子を派遣する預言者はいませんでした。御子の道を準備するために、御父から遣わされた多くの使徒たちがいました。それに倣って御子は、ご自分自身のミッションとともに、旧約全体を再解釈する言葉をもって、ご自分の弟子たちを派遣されます。「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」（ヨハ20・21）と。御父は、旧約聖書でヤーウェと呼ばれる唯一の真の神ですが、私たちが御父と御子の聖霊を受け、神の子となるように、御子を使徒としてお送りくださいました。御子ご自身は弟子たちを遣わし、今度は彼らを通して、私たち一人ひとりには御子のメッセージを伝えるように派遣されているのです。その私たちが全世界に伝えるべきメッセージ、それは、人間として生まれた者すべては、神の子となるように予定されているということです。

そうした意味で、私たち一人ひとは、御子を通して御父から遣わされる使徒です。私たちの使命は、一人ひとりが置かれている身分や状況に応じて、御子イエスのメッセージを伝えることです。したがって、弟子たちに向けられた主の言葉は、私たちにも当てはまるのです。「旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして下着は二枚着てはならない」。私たちはその言葉によって、生活に必要なものも、食べ物も、衣服も、完全に自分のことを御父に委ねるように、イエスの清貧を生きるように諭されます。このように、すべてにおいてみ旨にかなった生活を送るように呼ばれているのです。神がアブラハムに要求なさったことを御子にも要求され、御子は私たちにご自分に似た者となるように要求なさるのです。

J. E. ペレス・バレラ S. J.